

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 アイリス 組	6 月 11 日 (水)	得 真奈美/青山 柊

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス ～光～ 光と影の探検ごっこ		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
前週の影あそびから影への興味があり、園内外でできる影を発見し、影でできる様々な遊びを楽しんでいる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:30～10:40	・「影あそびはどんな遊びだったかな?」「影はどんな形をしていたかな?」等、前回の活動を振り返る。 ・実際にいった経験から「影ができるためには何が必要なのかな?」「影ができるのは外だけかな?」と問いかける。 ・光について子どもが気がついた時に、太陽とライトから光が直進する図解を出し、光と影の関係性について「どんな時に光や影があるかな?」と問いかける。 ・室内のどんな所に影があるのか探索し、自分で見つけた影を発表する。 ・「電気を消したら光は無くなるのかな?」「暗くなったら影はどうなるのかな?」と保育室を暗くしたら影はどうなるか調べてみようかと提案する。	【環境設定】 ・ 懐中電灯について、明るさの確認と、子どもの手に持った際に危険な箇所がないか確認しておく。 ・ 暗い環境が苦手な子がいないか等を把握しておく。 ・ 暗転した保育室で災害が発生した場合でも、瞬時に対応ができるよう、避難経路の確保と備品の確認をしておく。 【準備物】 ・ 懐中電灯 ・ 影や反射ができる物品 ・ ホワイトボード、マーカー ■参考資料 ・ 太陽とライトから光が直進する図解 ・ 光の反射の図解 【事前準備】 ・ 探究活動に使用する用具（懐中電灯、鏡など）使用方法をあらかじめ設定しておく。 ・ わかりやすいイラストや写真を選定する。
10:40～10:50	・電気を消し、「影は見えるかな?」等と問いかけ、光がないと影はどうなるかを一緒に確認していく。 ・電気を付け、「暗くなったら影はどうなったかな?」と気づいた事を話せる場を設け「どうして影が見えなくなったのかな?」と問いかける。 ・懐中電灯の使い方を伝え、「どうやったらみんなで見えるかな?」とグループで使うためにはどうしたらよいかを話し合っルールを決める。 ・再び保育室を暗くして、懐中電灯を使って照らしながら探検を試みる。「さっき影が無くなった場所に光を当てるとどうなったかな?」「影はどうなっているのかな?」「光はどうなっているかな?」と問いかけ、光と影の様子を観察できるようにする。	

10:50~11:00	・「この光はどこから来たのかな」と問いかけ、反射に気がつけるような声掛けもしてみる。 ・探検での発見や感想を発表する。内容に合わせて「どのように光や影が見えたかな?」「光や影の大きさはどうだったかな?」と問いかけてみる。 ・光の反射の図解を見せ、光が何かに当たって跳ね返ることを「反射」というと説明する。 ・実際に鏡に懐中電灯を当て、反射する様子を見る。 ・他にはどんなものが反射するのか問いかけ、次回調べてみよう(実験してみよう)と提案し、探究の継続と次回への意欲がわくような声掛けをする。	
-------------	---	--

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・前回の活動の広がりから、普段感じている光と影について、改めて探究的な視点で見るきっかけを作る。 ・光と影の性質に体験を通して気づき、試行錯誤する中で「不思議だな」「なぜそうなるのかな」という疑問をもつことで、探究することの面白さを感じられるようにする。 ・これから深めていく光と影の関係性や、反射や屈折などの光の性質についてを探検を通して気づいていく。	【子どもの姿・声】 ・「影ができる為になにが必要?」と問いかけると「太陽」「光があればお部屋でも影ができるんじゃない?」「確かにそうだね」等気付いたことを発言したり、友達の発言に共感したりする姿が見られた。 ・暗い所では影ができないと全員が予想していたが、実際に室内を暗くしてみると周囲の小さな明りによって影の見え方が変わることになり気付いていた。また、「夕方の時影が2つあったんだよ」と思い出して発言している子もいた。 【保育者との関わり】 ・正解を教えるより一緒に考える事を大切に。子どもたちが考える機会を増やした。子どもの驚きや発見を丁寧に拾って展開させ、探究の幅を広げる手助けをした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・影探検をしたことで身近な所にたくさん影があることに気付き、探究する姿勢が育まれていることを実感した。 ・太陽や光と影の関係性に興味をもち、積極的に気付きを発言する姿が見られた。 ・影について予想をしたり、懐中電灯を使って実験したりすることを楽しみながら新たな発見をすることができていたと感じる。 ・懐中電灯を使う際にグループごとに順番を話し合うようにするとじゃんけんや誕生日順、やりたい順と様々な決め方をしており、子ども達だけの話し合いで決められるようになってきた。	懐中電灯の使い方を事前に確認していたことで安全に活動が行えた。どのような活動でも安全への配慮や環境構成を考えて行うようにする。 子どもの発言でもあったように時間によって影の見え方も違って来る。実際に違う時間帯の陰を見る機会を作る等、子ども達の発言から探究したい意欲を引き出せるような関わりをしていけると良い。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 アイリス 組	6 月 19 日 (木)	得 真奈美

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス ～光～ 光であそぼう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
懐中電灯を使って身近にあるものを照らすことでできる影や反射ができる様子に興味をもっている。日常の中でも反射している光を探したり、発見したりすると喜んで伝える姿も見られる。子どもたちは日常の中で光に関する不思議な現象を目にし、前回の活動から「光がピカッて動いた！おもしろい！（光の反射）」といった疑問をもつことがある。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
11:10～11:15	・「光の反射って、何だったかな？」「お部屋の中でどんなものに反射したのかな？」等、1プログラム目での探検で気づいた光の反射について、その時出た予測を振り返る。 ・「お部屋の中にあるもので反射する物としない物はどれかな？」と問いかけ、考えた予測を共有しあったりしてホワイトボード等に記録する。 ・保育室を暗くして試してみようと提案する。 ・「前回作ったルールはどうだったかな？」懐中電灯の使い方を再度確認する。	【環境設定】 ・ 光の動きを観察しやすいように、暗くできるスペースを確保し、懐中電灯や鏡を使用しやすい配置にする。 ・ 懐中電灯について、明るさの確認と、子どもの手に持った際に危険な箇所がないか確認しておく。 ・ 暗転した保育室で災害が発生した場合でも、瞬時に対応ができるよう、避難経路の確保と備品の確認をしておく。 ・ わかりやすいイラストや写真を選定する。 【準備物】 ・ 懐中電灯 ・ ホワイトボード、マーカー ・ 鏡(ミラーシート等割れない物) ・ 透明のコップ(プラスチックまたはガラス) ・ 水 ・ 10円玉などの硬貨 ■ 参考資料 ・ 光の反射の図解
11:15～11:25	・反射する物しない物を実際に実験してみる。「光の当て方を変えると反射は変わるかな？」「皆が予想した物はどこにあるかな？」等、探究が広がるような声掛けをする。 ・「どんな物だとできたかな、できなかったかな？」「光の当て方を変えると光はどうなるのかな？」等、反射する物しない物の特性について振り返る。	【事前準備】 ・ 予め実験を行い、うまくいくか試しておく。 ・ 探究活動に使用する用具（懐中電灯、鏡など）使用方法をあらかじめ設定しておく。 ・ 反射のするものが室内にあるのかを確認しておく。
11:25～11:30	・鏡に反射させたものを反射させることができるのか問いかけて予想し、実際に試してみることを提案する。 ・活動を振り返り、反射についての気づきを共有する。	

11:30～11:45	・光を使ってマジックができることを話し、実験を行う。光の屈折がより気づきやすいように援助する。 ・「10円玉はどう変わったのかな?」「どうして消えるのかな?」「水の量で見え方は変わるかな?」等、なぜ消えたように見えるのか、角度によって消えたり見えたりするのか考えるきっかけを作り、話し合っていく。 ・今回のマジックの結果を振り返り、「どうして10円は消えたのかな?」等、疑問を問いかけ、考えるきっかけを作っていく。 ・実験の感想や、どうして10円が消えて見えるのか予想を発表する。 ・光が水を通るときに曲がってしまうことを光の「屈折」というと説明し、お風呂で腕の角度が曲がって見える等、身近に起きている具体事例をあげ、他にどんなものがあるのかを予想し発表する。 ・次回は水の中の光の進み方を見る実験をしてみよう提案する。
-------------	--

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・室内にあるもので反射するもの、しないものについて予想し、グループになって実際に反射するのか試した。 ・身の回りに光を反射するものが少ないことや鏡の角度で変化があることに気づき、いろいろと試していた。 ・10円玉の実験では、水を入れると見え方が変わることを発見し、「消えた!」と盛り上がっていた。	【子どもの姿・声】 ・反射するものを探す際、グループ内で順番に懐中電灯を使うと前回決めた約束事を伝え合い、仲良く扱っていた。また、一人が光を当て、同じグループの子が光の反射を確かめる等子ども同士で役割を分担して行う姿が見られた。 ・実験の予想と結果をホワイトボードに書き皆で見えるようにすると「反射するものって少ないんだね」と気付いて発言していた。 ・10円玉の実験では、様々な角度からじっくり観察していた。 【保育者との関わり】 ・子ども達の発言から「なぜそう思ったのか?」と問いかけ、子どもたちが考える機会を増やした。また、実験の結果を見て、「なんで消えて見えるのかな?」と問いかけ、探究の幅を広げていった。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・鏡を使って光のリレー遊びをやってみようとしたが、うまく反射させることができなかった。そのことから鏡同士で反射させることは難しいという結果になった。 ・実験を通して、光を反射させるものは意外と身の回りに少ないと知った。 ・10円玉の実験でコップに水を入れることで10円玉が消えて見えることの不思議さや面白さに子どもたちが気付き、「おうちでもやってみたい!」という姿も見られた。保育園だけではなく、経験したことを家庭でも取り組めるようにすることで親子で一緒に考える楽しさを感じられるのではないかと感じた。	実験の内容が手品のように子ども達も興味津々だった。保育者の失敗から学ぶ機会につながることもある。失敗を恐れず様々なことに挑戦する姿の見本になれると良い。また、失敗から子ども達と一緒に考えることも大切。

活動テーマ		
サイエンス ～光～ 光のマジックをしよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
前回の活動を通して「なんで水に入れると見え方が変わるんだろう？(光の屈折)」といった疑問をもつ様子が見られる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:30～10:35	・「鏡に光を当てるとどうなったかな？」「光が跳ね返ることを、何と呼んでいたかな？」等、光の反射について振り返る。	【環境設定】 ・ 水を使うため、こぼしても安全なスペースを確保し、子どもたちがじっくり観察できるように透明なコップを用意する。 ・ 懐中電灯について、明るさの確認と、子どもの手に持った際に危険な箇所がないか確認しておく。
10:35～11:00	・光のマジックを見ながら振り返り、「10円が何で消えたか覚えてる？」「光が曲がることを、何と呼んでいたかな？」等、光の屈折について振り返る。 ・今日は新しい光の性質「屈折」について実験することを伝える。 ・3つのコップに異なる液体(A=赤:コップいっぱいの水、B=青:半分の水、C=緑:油)を入れ、それぞれに10円玉を沈めることを説明する。【実験1】 ・「どう見えると思う？」「なんでそう思ったのかな？」等、10円玉を入れたときの様子を予測できる時間を設け、子どもたちが考え、自分の意見を伝えようとするきっかけを作る。 ・A、B、Cのコップに10円を入れ、「どのコップの中の10円玉が一番大きく見える？」と問いかけ、子どもたちの気づきを聞く。 ・ビニール袋に絵を描き、水に沈めるとどんなふうに見えるのか予想して発言する。 ・ビニール袋に絵を描き、水に沈めるとどう見えるのか確認する。【実験3】 ・「どう見えた？」「何が消えたかな？」「袋に絵をかいいたらどうなるのかな？」「見る場所によって違って見える？」「どうしてかな？」等、声を掛け、観察や気づきの広がりを援助する。	【準備物】 ・ 懐中電灯 ・ ホワイトボード、マーカー ・ 透明のコップ(プラスチックまたはガラス)3つ ・ 10円玉などの硬貨3つ ・ 水 ・ サラダ油 ・ 鏡 ・ カラーの油性ペン ・ 黒の油性ペン ・ 完全に密閉できるビニール袋 ・ 紙(ビニール袋のサイズに合わせる) ・ 水槽(洗面器)など ■参考資料 ・ 屈折の図解(空气中→水中) 【事前準備】 ・ 探究活動に使用する用具(懐中電灯・水槽など)使用方法をあらかじめ設定しておく。 ・ 予め実験を行い、うまくいくか試しておく。 【実験1】 3つのコップが区別できるように、シールを貼る ・ コップA:赤 ・ コップB:青 ・ コップC:緑 【実験2】 ・ 予めカラーペンで見本の絵を描き、ビニール袋の上から、残したい部分の輪郭のみ黒の油性ペンでなぞる。
11:00～11:05	・次回は光と影に色がつけられるか実験をしてみよう」と提案する。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・コップに入れた10円玉が変わることに驚きながら観察を進めた。 ・実験では、どうなるのかと興味を持ち、じっくり観察し、見え方が異なることにも気づいた。 ・ビニール袋の実験では、一人一人が袋に入ったイラストを水に入れることで角度を変えながら観察することで「絵の色が消えた！」と驚きの声上がり、屈折による光の変化を実感することができた。	【子どもの姿・声】 ・「10円玉の大きさが違く見えるよ!」、「なんで色が見えなくなったの?」「この向きにすると色が消えて見えるよ!」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。 【保育者との関わり】 ・「その気づきはどこから見たのかな?」と問いかけながら、子どもたちの気づきを促した。 ・実験では、保育者が見せるだけでなく子ども達にも順番に体験してもらうようにしたことじじっくり観察できるようにした。また、「どうしてだろう?」と考える時間を大切に、探究する姿勢を育むようにした。

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
・実験を通して光の屈折について興味をもち、「おうちでもやってみよう!」「ママにも教える!」と意欲的に話をする子もいた。 ・普段気にならない現象も子ども達と一緒に実験を通して確認することで自分自身も「なんでだろう?」と考えきっかけになった。 ・予想する際に「○○になると思う」と発言する子が多い中、「○○だから○○になると思う」と発言する子が1人いた。考えることを大切にしながら伝え方も少しずつ身に付けられるよう関わっていこうと思う。	実験での経験をおうちの人にも教えたい話していた。家庭でも取り組めるように活動の様子を保護者に分かりやすく伝えることで家庭でも親子での探究活動につながるの園と家庭で連携できると良い。文章で考えを伝えることは難しいが、無理強いせず、子ども同士で気付けるよう保育者が問いかけながら引き出していけると良い。

実施クラス				実施日	実施保育者名
5	歳児	アイリス	組	7 月 3 日 (木)	得 真奈美/青山 柊

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス ～光～ 光や影に色をつけよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日常生活の中で身近な所にある影に気付き、発見した喜びを友達と共有する姿が見られる。 光と影の関係に興味をもち、探究保育活動に意欲的に取り組んでいる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:30～10:35	・「前回どんなマジックをしたか覚えているかな？」 「光の屈折とは何だったかな？」等、前回の水槽で 光の屈折を確認した内容を振り返る。 ・「光を当てると出てくるものは、なんでしょう か？」「影は何色だったかな？」等、光を当てた時 にできるものは何かクイズを出し、影について覚えて いることを発表する。 ・前月の影あそびや①プログラムで行った探検 ごっこでやってみた光と影についても振り返る。 「光の当て方で大きさや長さはどうだったかな？」 「暗くなったら影はどうなったかな？」など問いかけ をし活動の振り返りを深める。	【環境設定】 ・ 影の変化を観察しやすいように、部屋を暗くで きる環境を整える。 ・ 暗転した保育室で災害が発生した場合でも、瞬 時に対応ができるよう、避難経路の確保と備品の 確認をしておく。 ・ 懐中電灯とセロファンを十分に用意し、子ども たちが実験しやすいスペースを確保する。 ・ 室内で実験が安全に行えるスペースを確保する。 ・ 実験に必要な道具を使いやすい場所に準備し、 子どもたちが観察しやすい環境を整える。 【準備物】 ・ 懐中電灯3本 ・ セロハンテープ ・ 赤、緑、青の3色のカラーセロファン ・ 光の三原色の図 ・ ホワイトボード、ペン ・ カラーセロハン ・ 黒い色画用紙(約20cm四方) ・ はさみ ・ ステンドグラスの写真 ・ ホワイトボード、ペン 【事前準備】 ・ 予め実験を行い、うまくいくか試しておく。 ・ 懐中電灯について、明るさの確認と、子どもの 手に持った際に危険な箇所がないか確認してお く。 ・ 探究活動に使用する用具（懐中電灯・水槽な ど）使用方法をあらかじめ設定しておく。
10:35～11:30	・部屋を少し暗くし、グループに分かれて影あそび をする。 ・それぞれ観察した気づきを発表する。「色々な 形、長さ、大きさのかけができるね。」「色はどうだ ろう？」「いろいろな色の影はできるかな？」「どう やったらできそうかな？」等、質問をしながらホウ ワイトボードに記録する。 ・懐中電灯にそれぞれセロファンを貼りながら、光 の色は何色になるか予想し発表する。 ・赤・青・緑のセロファンを貼った懐中電灯で二色、 三色の光を組み合わせた場合の影の変化を予想 し、観察した結果を共有する。 ・「色を混ぜるとどうなる？」「影はどうなった？」 と問いかけながら考えを深める。 ・ステンドグラスについて紹介し、知っていること や見て気づいたこと、今までの実験を通して考え たことなどを発表していく。 ・ステンドグラスを作ってみることを提案する。	

11:30～11:35	・黒い画用紙で作った枠を用意し、好きな色のセロファンを貼りつける。 ・自分の好きなように貼って良いことを伝え、製作を進める。 ・完成したスタンドグラスに日光や懐中電灯を当て、どのように光を通すか観察する。 ・子ども同士で見せ合ったり、協力したりしながら完成したスタンドグラスに光を当て、様々な発見を共有する。 ・それぞれのスタンドグラスの良い所を認め合いながら、全体で再度気付いたことを伝え合う。 ・作品を見ることができるよう「どこに展示するといいかな?」「光や影を感じやすい場所はどこだろう?」等と問いかけながら展示場所や方法をみんなで考える。	
-------------	--	--

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・カラーセロハンを使って光に色を付けて影を作った。1色だと影は黒色のままだったが、複数の光を組み合わせることで影に色を付けることができることに気づき、カラフルな影づくりを楽しんでいた。 ・スタンドグラス製作を行い、完成すると光を当ててどんな風に映るのか興味をもって試していた。完成した子が増えてくると互いのスタンドグラスを見せ合ったり、「重ねてみよう」「光の当て方を変えてみよう」と意見を出しながら、光の混ざり様子を楽しむ姿が見られた。	【子どもの姿・声】 ・「青と赤の光を当てたら紫になるよ!」「紫より少しピンクっぽいな!」「影が虹色になった! 不思議!」など、それぞれの気づきを発言する姿が見られた。 ・「光の場所で影の大きさが違うね!」「同じ色でもたくさん重ねている所と色の濃さが違うね!」などそれぞれの気づきを発言する姿が見られた。 【保育者との関わり】 ・「どうして影に色ができたんだろう?」と問いかけながら、子どもたちの考えを引き出した。また、光の三原色について簡単に説明すると色の組み合わせでできる色について理解している様子だった。 ・「どうして影の大きさが変わるんだろう?」と問いかけ、子どもたちが考える機会を増やした。また、色の変化を実験しながら、子どもたちが自分の考えを発言できるように関わっていった。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・子どもたちは、影の色が変わることに強い関心を持ち、何度も試しながら考えを深めていた。 ・光の色を混ぜることで影の色が変わることに驚いた。実際に影を作りながら「何色なんだろう?」と問いかけることで子どもたちが影に注目することができた。 ・製作に時間が掛かる事を想定し、事前に黒画用紙で枠組みを用意した。色の組み合わせや貼り方を工夫しながら丁寧に取り組んでいた。 ・スタンドグラスへの光の当て方に関心を持ち、自ら考えて工夫する姿が見られた。	子ども達の気づきの発言を聞き、どうしてそうなるのか問いかけることで子ども自身が考えるきっかけを与えられていた。スタンドグラス作りから実際に太陽の光に当てて色の変化への興味関心を高められていた。今回の活動でもあったように自ら予想したことを試せる環境づくりをしていくことで子どもの探究心が高まると思う。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 アイリス 組	8 月 21 日 (木)	青山 柊

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ～野菜～ 野菜ってなに？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
給食や家庭の食事に使用されている野菜の名前を覚えたり、「これはなに？」と野菜に興味をもっている。好きな野菜や苦手な野菜について友だちと話したりする様子が見られる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:20～10:40	・スイカ割りを楽しむ。	【環境設定】 ・安全に探究できるよう環境を設定する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。 【活動使用教材】 ・スイカ ・虫眼鏡 ・野菜の絵本図鑑 ・棒 ・バット ・目隠し ・ブルーシート ・ホワイトボード ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・虫眼鏡の使用方法を設定しておく。 ・観察スペースの設定をしておく。
10:50～11:30	・スイカの観察をしてみようと提案する。 ・虫眼鏡の使用方法を確認する。 ・スイカを観察する。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・スイカについてのイメージや知っていることをを問いかけ、発言してもらう。 ・虫眼鏡の使用方法を確認し、野菜の観察を行った。色やにおい、重さ、かたさ、触感、ヘタの有無などについて探究を深めた。 ・振り返りでは観察での発見や感想を友達と共有する時間を設けた。	【子どもの姿・声】 ・スイカを手に取り、においをかいだり、虫眼鏡でじっくり観察したりと五感を使って観察していた。 ・「つるつるしてる！」「種の色が黒だけじゃなくて白とか茶色がある」「スイカの模様って緑と黒のシマシマだと思ってたけど緑と濃い緑のシマシマだ」「皮は硬くて割れない」「割るとバキバキって音する」「すごく水が出てくる」「あかーい」など、見た目や手触りの違いに気づいて言葉にしていた。 【保育者との関わり】 ・子どもの発見やつぶやきを受け止め、「ほんとだね、においはどう？」「個々の部分はどんな触り心地？」と問いかけを返して、さらに探究を深めるサポートをした。 ・子どもの気づきを言語化しやすいように、「つるつる」「ざらざら」「ふわふわ」などの言葉を一緒に使いながら対話をした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・子どもたちは、普段何気なく食べているスイカにも多くの発見を見出し、観察を通して「野菜って面白い」「もっと知りたい」という探究心が高まっていた。 ・見て、さわって、話すとという経験を通して、子どもたちは自然と観察力や表現力を育んでいた。 ・“食べもの”としてではなく、“自然の不思議”として野菜に向き合う機会になり、食育と探究の接点を実感した。 ・普段の食事では見過ごしがちな野菜の特徴に対して、子どもが自ら気づき、他者と共有することで学びが広がることを実感した。	すいか割の経験を上手に生かした活動になりましたね。一つの食材をよく観察することで、今まで気づかなかったことを知るきっかけにもなりますね。おいしい、まずい、苦手など、同じ食材でも人により感覚は違いますね。そんなことにも触れると面白いですね。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 アイリス 組	8 月 8 日 (金)	青山 柊

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ～野菜～ 野菜はどこにできるの？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
給食で出てくる野菜について、「これってどこで育ったの？」と話す姿があり、野菜の育ち方やできる場所に興味をもちはじめている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	・一番好きな野菜について聞く。	【環境設定】 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。 【活動使用教材】 ・野菜カード ・野菜の絵本 ・野菜の図鑑 ・動画 ・iPad、タブレット、PCなど(保育者が調べるために使用) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・野菜カード。 ・子どもたちが興味がある野菜を導入で話す時間を設ける。
10:10～10:30	・野菜、果物カードをつかって野菜を見つけ出す。 ・すいかは野菜か果物か考える。 ・みんなで野菜だと思う理由と果物だと思う理由を出し合ってホワイトボードにまとめる。 ・カードや図鑑で調べて果物の共通点を見つけてすいかが野菜の可能性に気付く。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・子どもたちの好きな野菜について話すことで興味を持たせる。 ・子ども達の疑問に出た「すいか」に注目して調べることでより一層の興味に繋げてた。 ・疑問が残るように活動を終わらせて、次回の活動に期待感を持たせた。	【子どもの姿・声】 ・「すいかは前に給食のフルーツの所に出てたから果物じゃない」や「テレビで野菜だっていったよ」など子ども達で知識を出し合う姿が見られた。 ・友だちと話し合いながら、「これ、間違えてた！」「やっぱりそうか！」と答え合わせのように確かめ合い、学び合っていた。 【保育者との関わり】 ・子どもたちの分類の様子を見ながら、「どうしてそう思ったの？」「他に同じ場所にできる野菜はあるかな？」と問いかけ、思考を深めるサポートを行った。 ・図鑑や写真を用いて実際の生育の様子と一緒に確認し、正解を教えるのではなく、気付きに導くような関わりを意識した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・子どもたちはこれまでの生活経験をもとに、野菜ができる場所について自分なりの考えをもっていることに気付いた。 ・、友だちと意見が分かれる中で学び合おうとする姿が多く、活動を通じて思考の柔軟さと協同性が育まれていると実感した。 ・保育者が「どこでできるのか」を教えるのではなく、子ども自身が考え、比べ、話し合うプロセスを大切にすることで、より主体的な学びにつながることを再確認した。	野菜や果物にはたくさんの種類がありますよね。給食に出てくる食材を意識したのは身近な野菜を知ることになったと思います。そして、好き嫌い味覚に繋がったのは、子どもたちの言葉に耳を傾けたからですよ。子どもたちとたのしみながら、発見していきましょう。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 アイリス 組	8 月 14 日 (木)	青山 柊

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ～野菜～ 食べているのはどこ？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
探究活動を通じて、給食の時間に「この野菜はなんで固いの？」「ここは皮なの？」と野菜によって形や食感が違うことに気付き、不思議に思う姿がある。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
11:00～11:10	・前回の活動を振り返る。	【環境設定】 ・調べたり、興味関心を深めたりできるように、図鑑やタブレットを活用できる環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。 【準備物】 ・野菜カード ・野菜の絵本 ・野菜の図鑑 ・iPad、タブレット、PCなど(保育者が調べるために使用) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー ・プロジェクター 【事前準備】 ・日頃から植物図鑑などで植物の名称に慣れる機会をつくる。
11:10～11:30	・すいかの育ち方について動画を見る ・植物の根、茎、葉、花、実・種などの名称を確認する。	
11:30～11:40	・すいかはどの部分を食べているのか子ども達の考えを話し合う。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・前回の活動内容の振り返りから始め、子どもたちが自分の体験や気づきを言葉にすることで学びを整理し、次の探究への関心を高める。 ・この野菜はどこを食べていると思うか問いかけを行い、「根」「茎」「葉」「実」「花」などの部位を意識して考えるよう促した。 ・活動中に出た疑問を共有し、図鑑や写真で確認、子どもたちの気づきを言葉にして記録した。 ・最後に「今日の給食にある野菜は、どの部分かな？」と生活に結びつけ、日常への関心へとつなげた。	【子どもの姿・声】 ・「すいかの実じゃない」や「さっき花がさいてたよ」など様々な見方を言葉にして表していた。 【保育者との関わり】 ・写真やカードを子どもたちに見せ、子どもの気づきや発言を拾いながら「どうしてそう思ったの?」「他にも似てるのはある?」と問いかけを行った。 ・部位によって分類する際、「根」「葉」「実」などは、それぞれの役割や見た目の違いに目を向けられるように導いた。 ・活動の最後には「今日の給食にはどの部分の野菜があるかな?」と生活と結びつける声かけをし、食への関心につなげた。

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
・実物がなくても、子ども同士の会話や発見の共有によって学びが広がっていく様子から、「知ること」の楽しさを支える環境づくりの大切さを改めて感じた。 ・「根・葉・実・花」などの専門的な語彙にも興味をもち、言葉を覚えることでさらに分類が楽しくなる様子が見られ、言葉と体験を結びつける保育の重要性を実感した。	野菜や果物の生長に、「根・葉・実・花」があることを学んだのですね。実物からではなく、タブレットや図鑑からも調べられことを分かるのもいい学びだと思います。野菜の収穫など、体験できる機会を設けたいと思ったりしています。野菜を買いに行く、料理を作る、そんな活動も今後出来たらいいですね。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 アイリス 組	8 月 28 日 (木)	青山 柊

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ～野菜～ 野菜カードをつくろう！		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
これまでの活動を通して、子どもたちは野菜の形・色・育ち方・食べる部分などさまざまな特徴に関心を持ち、友だちと話し合う姿が見られる。 活動を重ねる中で、知ったことを自分で表現したいという意欲が高まっている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
11:00～11:10	・前回の活動を振り返る。	【環境設定】 ・調べたり、興味関心を深めたりできるように、図鑑やタブレットを活用できる環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
11:10～11:40	・オリジナルのスイカの図鑑を作ろうと提案する。 ・どんなものを図鑑に載せたいか、何を調べたいかを考える。 ・必要な用具を用意する。 ・完成のイメージをもちながら、製作を進める。	
11:40～11:50	・完成した作品を見て、好きなところなどを伝え合う。	
		【準備物】 野菜の絵本 野菜の図鑑 iPad、タブレット、PCなど(保育者が調べるために使用) 子どもたちから必要と意見が上がったものを準備する。(例えば、クラフト用紙、絵の具、クレヨンなど) ホワイトボード ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・これまでの活動の記録をホワイトボードなどに貼り出し、振り返りやすい環境を整える。 ・制作しやすいよう、作業スペースを設定する。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・前回の活動内容の振り返りから始め、子どもたちが自分の体験や気づきを言葉にすることで学びを整理し、次の探究への関心を高める。 ・必要な用具を用意し、製作を進める。 ・完成した図鑑を友達と見せ合いながら、「何を描いたのか」「どんな特徴があるのか」などを発表・共有した。	【子どもの姿・声】 ・これまでの活動で学んだスイカの特徴を思い出しながら、「赤いところが甘かった」「漬すと汁が沢山でた」と画用紙に描く内容を自分で考えて表現していた。 ・色鉛筆やクレヨンを使って「本物に近づけたい」とこだわりをもって描いたり、「名前も書きたい!」と文字に挑戦する姿も見られた。 ・友だちと得意なことや役割分担をしていた。 【保育者との関わり】 ・「どんなふうに育っていたっけ?」「何色だったかな?」などの問いかけを通して、観察や学びを再構築しながら表現できるように支援した。 ・製作している図鑑を認めながら、「おもしろい描き方だね」「根っこがしっかり描けてるね」と、個々の工夫や視点を肯定的にフィードバックした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・これまでの活動の積み重ねにより、子どもたちの中に野菜への理解や印象がしっかりと根づいており、それを自分なりに思い出して描こうとする姿が多く見られた。 ・単に絵を描くだけでなく、「どの部分を描こう」「どう表現しよう」と考える様子から、表現する力・構成する力が育っていることを実感した。 ・友だちと見せ合いながら意見を交わす中で、子ども同士が刺激し合い、新たな視点や表現方法を取り入れていく姿が印象的だった。 ・図鑑やカードを活用しながら、自ら確認しようとする姿も見られ、子どもたちが主体的に知識を深めようとする探究心が育っていることを再確認した。	すいかについて、深く学べましたね。一つの食材を少しずつ角度を変えて考えることは、保育士の学びにもなったと思います。絵を書くことも楽しみになっているようですね。自分たちで考えたことを表現するいい方法でもありますね。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 アイリス 組	10 月 3 日 (木)	青山 柊

● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ これは何色？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日々の生活の中で、身の回りにある色に自然と目を向けている。『この花はあか！』『先生の服はみどりだね』と色を言葉にしたり、絵を描くときに好きな色を選んだりしている。また、食事の中でも『にんじんはオレンジだね』『ブロッコリーはみどりだ』と気づいたり、活動の中で色の違いや混ざり方に関心をもつ姿も見られる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
11:00-11:15	・12色の色折り紙の中から、好きな1色を選ぶ。	【環境設定】 ・子どもたちがたくさん色を見つけやすいように、環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 【準備物】 ・12色(赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶)の折り紙 ・寒色暖色中間色の色見本 【事前準備】 ・赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶色の折り紙 →16等分に切り分ける。(人数分またはグループで1セット) ・色の効果、寒色暖色中間色について事前に学習して理解を深めておく。 ・色の原料について事前に学習して理解を深めておく。 ・寒色暖色中間色の色見本をプリントする。 ・白い画用紙と着色が期待できる素材を複数用意しておく。 ・色彩心理学に関する資料を用意し、理解しておく。
11:15～11:30	・色の持つ印象について話し合う。	
11:30～11:45	・「どの色が楽しい?」「どの色が悲しい?」など、色彩心理学の視点から色の効果を体感する。 ・「赤は元気が出る色?それとも静かな色?」など、感じ方の違いを共有する。 ・身の回りの色に注目し、それぞれが持つ意味や効果を考える。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
色の違いや成り立ちについて関心をもち、積極的に考えながら活動を進めた。「この青は冷たそう！」「黄色は元気になる色！」と色の印象を話し合い、色の持つ効果を実感していた。また、実際に12色の中から好きな色を選び、「この色が好きな理由」を考えることで、色への理解を深めていた。	【子どもの姿・声】 ・「この色は明るくて楽しい感じ！」「紫って、どんなものからできているの？」「赤と青を混ぜたら、何色になるのかな？」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。 【保育者との関わり】 ・「この色を見てどんな気持ちになる？」「どんな場面でこの色が使われているかな？」と問いかけながら、子どもたちが色の持つ意味を考える手助けをした。また、異なる文化や歴史における色の役割についても簡単に紹介し、興味を広げるようにした。

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
・子どもたちは、色の違いや組み合わせに強い関心をもち、「もっといろいろな色を見てみたい！」と興味を深めていた。 ・自分の好きな色を選び、その理由を考えることで、色への理解が深まり、表現する力も育まれていた。 ・色彩心理の話に興味を示し、「この色はどんな気持ちの時にいいの？」と質問する姿が見られた。	自分の好きな色を選び、その理由を言葉で伝え合うことは、違う場面でも行かせる活動ですね。色から、仲間探しもできるし、色から感じる感情など、幅広く取り組めたと思います。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 アイリス 組	10 月 10 日 (木)	青山 柊

● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ 色をつくってみよう！		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
身近な絵の具やペンを使い、赤・青・黄などの色を混ぜて新しい色を発見している。『ちがう色になった！』『ぶどうジュースみたいな色になったよ』と驚きや喜びを表現している。自分の手で色を生み出すことにワクワクし、もっと混ぜてみたい、他の色でも試したいという意欲をもっている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
11:00～11:15	・「この色を作りたい、どうしたらいいかな？」と問いかけ、興味を引き出す。 ・「絵の具にない色はあるかな？どのくらいあるかな？」など、混色について考える。 ・色の三原色(赤・青・黄)について紹介し、色を作る仕組みを知らせる。 ・どの色とどの色を混ぜると新しい色ができるか予想する。 ・作りたい色を決め、どのように混ぜるか考える。	【環境設定】 ・子どもたちが自由に色作りを楽しめるよう、十分な作業スペースを確保し、こぼしても問題のない環境を整える。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 【準備物】 ・混色ガイド ・2オンスの透明カップ ・色水(赤、青、黄色) ・スポイト 【事前準備】 ・色の三原色や三属性について理解し混色のしくみを理解する。 ・2オンスの透明カップと赤青黄色白黒の色水を作っておく。
11:15～11:35	・透明カップと色水(赤・青・黄)を使い、スポイトで混ぜながら色を作る。 ・どのように混ぜると希望の色になるか試行錯誤しながら観察する。 ・できた色を見比べながら、「混ぜる色の量によって変わる？」など気づきを話し合う。 ・「他にどんな色を作れるかな？」と、さらに混ぜることに挑戦する。	
11:35～11:45	・どの色とどの色を混ぜたらお気に入りの色ができたかを発表する。 ・「どうやって作った？」と問いかけ、色作りのプロセスを振り返る。 ・色の三原色や混色の仕組みを再確認し、色作りの楽しさを意識できるようにする。 ・「次はどんな色を作りたい？」と問いかけ、次の活動につなげる。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
子どもたちは、自分の好きな色を作ることになり、「もっといろいろな色を作りたい!」と積極的に活動に取り組んだ。 混色を試しながら、「思ったより暗くなった!」「あれちょっと違う色だ」といった気づきを楽しんでいた。 どの色を混ぜたらよいか考えながら試行錯誤する姿が見られた。	【子どもの姿・声】 ・「黄色と青を混ぜたら何色になるかな?」「ミント色はどうやって作ったの?」「もうちょっとだけ青入れてみよう」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。 【保育者との関わり】 ・「どのくらいの量を混ぜたらこの色になるかな?」と問いかけながら、子どもたちが考える機会を増やした。また、「もし白を混ぜたらどうなるかな?」など、新しい試みに挑戦できるようなサポートを行った。

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
・子どもたちは、色作りの過程に強い興味をもち、試行錯誤しながら色の変化を楽しんでいた。 ・予想と違う色ができることも学びの一つとなり、発見を喜ぶ姿が多く見られた。 ・自分なりの工夫を加える姿勢が育まれていた。	子どもたちは、絵具やクレヨンなど、色を使った活動が大好きですね。好きに描くという作業は、心の開放につながるので、とても重要な活動の一つだと考えています。今回のように、スポイトを使って、色の広がりを楽しんだり、混ぜる瞬間の流れを眺めることで、色を混ぜるという意識を育てることにつながる活動でもあります。子どもたちから発せられた言葉をたくさん拾ってくださいね。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 アイリス 組	10 月 30 日 (木)	青山 柊

● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ 色の世界をのぞいてみよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
身の回りにたくさんの色があることに気づいている。『空は青だけじゃなくて白もある』『葉っぱもいろんなみどりがあるね』と発見を広げている。色を比べたり『どっちの赤が好き？』と友だちと話し合ったりしながら、色の多様さや奥深さに関心をもっている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
11:00～11:15	・色の三原色や三属性について振り返り、色の見え方について考える。 ・「赤のメガネをかけたら、世界はどんな色に見えるかな？」と問いかけ、興味を引き出す。 ・セロファンを貼った色メガネを作り、色の変化を予想する。 ・「この色のメガネをかけたら、青いものはどう見えるかな？」と問いかけながら、観察の視点をもたせる。 ・出来上がった色メガネを使い、グループごとにさまざまな色のものを見て、どのように変わるか観察する。 ・「黄色の紙は、赤いメガネで見ると何色に見える？」などの問いかけを行う。	【環境設定】 ・子どもたちが自由に色の違いを試せるよう、十分なスペースを確保し、照明の調整ができる環境を整える。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 【準備物】 ・トイレットペーパーの芯 人数分 ・セロファン人数分 多色×2 ・セロハンテープ 【事前準備】 ・セロファンをトイレットペーパーの芯に貼れる大きさに切っておく。
11:25～11:35	・どの色のメガネでどのような見え方をしたかを共有する。 ・「思った通りの色だった？違って見えた？」と考えを深める。 ・色メガネを通した世界の違いについて発表し合う。 ・「みんなはどのメガネで見るのが楽しかった？」と振り返る。	
11:35～11:45	・色の見え方が変わることを再確認し、色のふしぎを意識づけしていく。 ・「ほかにも、どんなもので色の見え方が変わるかな？」と問いかけ、さらなる探究につなげる。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
自分で作った色メガネを通して世界を見ることに大きな興味をもち、何度も色を変えて観察していた。 「緑のメガネをかけると、緑のものはどう見える？」と考えながら、実際に見え方を比べることで、色の変化に気づく場面が多く見られた。 また、「思った色と違う！」という驚きとともに、新たな発見を楽しむ様子が見られた。	【子どもの姿・声】 ・「赤のメガネをかけたら、青いものが黒っぽく見えた！」、 ・「黄色の紙がオレンジに見えるのはなんで？」、「緑のメガネで緑の折り紙を見たら見えなくなった」など、それぞれの気づきを発言する姿があった。 【保育者との関わり】 ・「なぜこの色に見えるんだろう？」と問いかけながら、子どもたちが自分で考える時間を大切にしました。また、「ほかのメガネと比べたらどうなる？」など、さらなる探究につながる声かけを行った。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・色の見え方が変わることに對して、子どもたちは強い関心をもち、何度も試して確認しようとする姿が見られた。 ・予想した色と実際の色の違いに驚きながらも、「どうしてだろう？」と考える姿勢が育まれていた。	セロファン眼鏡を実際に作り、色を楽しむ事が出来たのは、とてもいい経験になりましたね。子どもたちも、大喜びだったことでしょう。子どもたちの心が動く、そんな瞬間を逃さず、一緒に喜び合いながら、活動を楽しんでくださいね。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 アイリス 組	10 月 17 日 (木)	青山 柊

● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ 5つの色から虹をつくろう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
これまでの活動で親しんだ色を使い、『赤と青を並べたらきれいだね』『虹にはどんな色があるかな?』とイメージをふくらませている。友だちと色をつなげたり並べたりしながら、色を組み合わせせてひとつの世界をつくりあげる喜びを感じている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
11:00～11:15	・絵の具の原材料についてみてみたり混色のやり方を振り返り、虹の色について話し合う。	【環境設定】 ・子どもたちが自由に絵の具を使いながら、安心して色作りに挑戦できるスペースを確保する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 【準備物】 ・虹の見本の絵 ・絵の具で描いた虹の絵 ・絵の具(赤、青、黄色、白、黒) ・パレット ・筆 ・画用紙 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真 (赤…カイガラムシ、青…ラピスラズリ、黄色…クチナシ、紫…アカニシ貝、白…ハマグリ、黒…墨) 【事前準備】 ・わかりやすいように事前に見本の絵を描くか保育中に一緒に描けるようにしておく。 ・市販の絵の具で描いたバージョンも比較の為に描いておく。
11:15～11:30	・「虹の色って何色?」「どうやって作る?」と問いかけ、興味を引き出す。 ・虹を描く7色を準備する。 ・「どの色をどう作る?」と考えながら色を作る。	
11:30～11:45	・作った色を使って、見本を見ながら順番に色を塗ってみる。 ・「順番を間違えないように気をつけよう」と声をかける。	
	・みんなで描いた虹を見比べる。 ・「同じ虹でも、それぞれ少しずつ違うね」と話し、オリジナルの色の面白さを感じられるようにする。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
子どもたちは、これまで学んだり、経験したりした混色の知識を活かしながら、自分で作った色を使って虹を描いた。「この色とこの色を混ぜたら何色になるかな？」と試しながら、色作りに挑戦し、楽しみながら活動を進めていた。特に、同じ色を作ることの難しさや、思った通りの色にならなかったときの驚きを感じる場面が多く見られた。	【子どもの姿・声】 ・「赤と青を混ぜたら、思ったより濃い紫になった！」、「このオレンジ、ちょっと黄色が多かったかな？」、「みんなの虹、ちょっとずつ違ってておもしろい！」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。 【保育者との関わり】 ・「どうしたら思った色になるかな？」と問いかけ、子どもたちが自分で考える時間を大切にした。また、「白を混ぜるとどうなる？」「黒を少し足したら？」などの声かけを行い、色作りの試行錯誤をサポートした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・子どもたちは、自分で色を作ることに大きな関心をもち、試行錯誤しながら取り組んでいた。 ・同じ色を作ることの難しさや、思った色にならないことも楽しみながら受け入れる姿が見られた。 ・「もっとこんな色を作りたい！」と、活動の後も色作りに関心をもち続ける様子があった。	虹を描くのは、難しい活動ですが、色の混ざり合う活動経験があるからこそ、出来る活動だと思います。保育は連続しています。ぶつぶん途切れているように感じますが、経験の積み重ねが保育なのです。色について、様々な角度から知ることが出来ましたね。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 アイリス 組	1 月 8 日 (木)	青山・得

● 実施計画

活動テーマ		
おかね ～おかねってなんだろう～ お金ってなあに？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日頃の生活の中で、お家の方との買い物や、お小遣い、キャッシュレス決済の場面などに触れる機会があり、「お金」という存在を意識し始めている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	【環境設定】 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にする。 【活動使用教材】 ・模擬商品(保育室内の玩具など) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・手に持って交換できる模擬商品を用意しておく。玩具以外にも、イラストや写真(本物と見立てる)などの活用も可。(玩具、食べ物、服、家、車、お店屋さん、水、砂、石など)
13:20～13:30	・買い物をする時に何が必要か問いかけ、意見をまとめる。 ・「お金以外のものを使って買ったことはあるか」など、幅広い意見を募る。 ・なぜ、何のために、お金があるのか考える。	
13:30～13:45	・大昔は物と物を直接交換していたことを伝え、お金のない世界の体験につなげる。 ・本物と仮定した模擬商品を一人あたり5個程度ランダムに配る。 ・自由に模擬商品を交換し、お互いに納得して交換できるか試す。	
13:45～14:00	・やってみて分かったこと、感じたこと、うまくいかなかった点などを発表し、意見をまとめる。 ・交換がうまくいかなかったものを、何となら交換できるか、どのようにすれば解決できるか考える。 ・次回は今の日本のお金について調べることを伝え、活動を終える。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・導入では、「買い物に必要なもの」について意見を出し合い、お金や電子マネー、カードなど様々な答えが上がっていた。次に「お金がなかったらどうなるか」を考え、「お金を払わないと泥棒になっちゃう」といった道徳的な視点も出されていた。その後、大昔は物々交換だったことを伝え、お金のない世界を体験する活動へと繋げた。 ・展開では、ランダムに配られた模擬商品を「本物」と仮定し、物々交換の活動を行った。子どもたちは「お互いに納得して交換できるか」を考えながら、積極的に交換を試していた。 ・物々交換の体験から自分があげたい物と欲しいものが必ず交換できるわけではないことを実感していた。そこから、交換がうまくいかなかった理由や、どうすれば解決できるかを考えた。物々交換の不便さを解消するために、交換の道具として「お金」が生まれたことを伝え、お金の必要性や役割について理解を深めた。	【子どもの姿・声】 ・商品に見立てた玩具を本物の商品だと思ってやりとりするよう促した。「どれが欲しいのか?」「何となら交換できるのか?」問いかけると真剣に考えを巡らせる様子が見られた。 ・物々交換の際には、友達とのやりとりを楽しみ、なんでもすぐに交換する子や価値観の違いから交渉に悩む子の姿が見られた。交換する物によっては数で調整しようとする様子が見られた。 ・「自分が欲しい物が交換できなかったらどうする?」と問いかけると「違うお友達と交換する」と諦めることもあることに気づく姿も見られた。 【保育者との関わり】 ・子どもたちの「お買い物」や「お小遣い」に関する過去の経験を丁寧に聞き出し、探究へ繋げていけるようにした。 ・どんな意見でもまずは受け止め、子どもの思いや考え、気づきを承認する姿勢を大切にした。また、予想と結果が違って「正解でないから駄目だ」と認識しないように配慮し、正解に誘導しないよう留意した。

振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
・物々交換の際に本物に見立てた玩具を用意したが、持ち運べるものとそうでないものの説明まで十分に行えず、物の交換を楽しむ姿の方が多く見られたように感じる。やり取りする前にじっくり説明すればよかった。 ・「欲しい物」と「交換できるもの」が違うこと、自分の欲しいものが手に入らないこともあることも体験を通して気づけていた。 ・次回以降の活動では、今回気づいた「不便さ」を解消する道具としての「お金」に、より興味関心を持って取り組めるよう、今回の活動での気づきを丁寧に振り返りながら繋げていく必要があると感じた。	キャッシュレス決済など、今の時代の子どもたちだなあと感じました。だからこそ、お金について考えることは、必要ですね。また、物々交換体験は、自分と相手の考えや思いが違うという事に気づきましたね。自分の欲しい物を手にするための手段について、色々な意見を出し合ってみましょう。